

■ CSR (Corporate Social Responsibility)

企業の社会的責任。社会における企業の影響力の拡大に伴い、企業の社会的責任は、法規制の遵守、経済的責任など企業活動の上で最低限必要なものから、企業倫理の重視、情報開示、社会への貢献などの社会的責任を果たしていくことが必要。企業の戦略に積極的に取り入れることで、リスク回避やイメージの向上により競争力の強化へとつながる。

■ フィランソロピー (Philanthropy)

営利を目的としない社会貢献・篤志活動。スポーツ、学術研究、環境保全、社会福祉、災害救援、健康・医療、教育、地域振興などさまざまな分野で、個人や団体が寄付やボランティア活動をしたり、人材・製品・技術・場所・サービス・情報等を提供したりすること。フィランソロピーとメセナは重複した部分はあるが、フィランソロピーは「匿名性」を、メセナは「署名性・契約性」を特徴とする。

■ メセナ (Mecenat)

芸術文化支援を意味するフランス語。古代ローマ皇帝アウグストゥスに仕えたマエケナス (Maecenas) が詩人や芸術家を手厚く擁護したことから、後世、その名をとって「芸術文化を擁護、支援すること」をメセナというようになった。日本では、企業メセナ協議会の設立に際し、企業市民としての自覚にもとづいて、直接的な経済メリットではなく長期的視野に立ち、社会貢献の一環として企業が行う芸術文化支援を指す言葉として、テレビ番組の協賛の意で使用されてきた「スポンサー」ではなく「メセナ」を採用したことから一般に知られるようになった。

■ コンプライアンス (Compliance)

直訳すると「法令遵守」。法律や規則などにそむかず、きちんと守ること。

■ コーポレートガバナンス (Corporate governance)

直訳すると、「企業統治」あるいは「企業統治の仕組み」。経営の効率性や経営の公正さをチェックする仕組み。

企業における意思決定の仕組みのことを指し、不正行為を防止する機能などがある。

■ SRI (Socially Responsible Investment)

社会的責任投資。企業に投資を行う際、財務面だけではなく環境や社会への対応なども考慮して投資先を決定する投資手法のこと。つまり、「企業が社会的責任をいかに果たしているか」を投資の世界から評価する動きと位置づけることができ、1990年代から世界的に拡大しており、日本においても注目されつつある。

■ トリプルボトムライン

経済パフォーマンスが良いだけでなく、環境配慮、社会倫理の確立など三拍子そろった経営基盤のこと。

■ リスクマネジメント

企業経営には、製造物責任、機密漏洩などの「経営リスク」、地震、火災などの「災害リスク」、戦争、内乱、為替変動などの「カントリーリスク」、情報漏洩・顧客情報漏洩などの「情報セキュリティリスク」など、数多くのリスクが潜んでいる。こういったリスクの発生を未然に防ぐよう努力し、リスクが実際に発生した時は被害を最小限にとどめる活動をリスク・マネジメントと呼ぶ。

■ I S O (International Organization For Standardization) (国際標準化機構)

1946年にロンドンで設立された、「製品サービス」などの世界的な標準化を推進している組織。I S Oが制定した品質面でのマネジメントシステムがI S O 9000シリーズで、環境面でのマネジメントシステムがI S O 14000シリーズ。

■ エイブル・アート

障害のある人々の芸術、またその作品。障害者の芸術文化の可能性（アートによる自己実現）、観る側が彼らの作品を通じて新しい芸術観や社会観を獲得する可能性という意から、エイブル・アート・ジャパンが「可能性の芸術」＝エイブル・アートという言葉を生み出した。

■ 1% (ワンパーセント) クラブ

米国の「パーセントクラブ」を参考に、1990年11月に日本経団連（旧 経団連）が設立した、經常利益や可処分所得の1%相当額以上を自主的に社会貢献活動に使おうと努める企業と個人の会。寄付や社会貢献活動に関する情報を提供し、広く一般に企業の社会貢献活動に対する理解を深めるための事業を行う。企業やその社員とNPOを結び付け、より有効な社会貢献活動を行うためのコーディネートも行う。

参考 社団法人企業メセナ協議会：メセナ用語集 (株)ディ・エフ・エフ：CSR用語集